

## 比叡山延暦寺と近江商人(その一)

2/20/2016

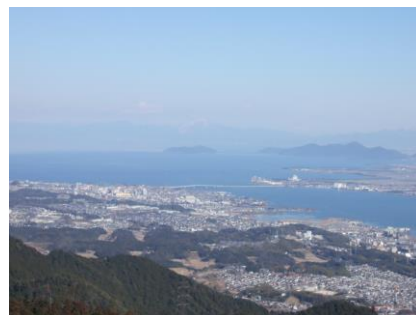
北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

時間が空いたので、琵琶湖の南方面へ旅に出ました。丁度、中国の春節の時期と重なったので、一泊目のホテルでは中国人ラッシュでした。旅先は、比叡山延暦寺への参拝、そして、「三方よし」の近江商人の地巡り、最終日は彦根城。ゆるキャラで有名な「ひこにゃん」に会ってきました。今回は前編です。

### 比叡山延暦寺でのテラリーマン

比叡山延暦寺には、琵琶湖の西の坂本より日本で一番長いケーブルカーに乗り向かいました。ふもとの気温は7度ほどありましたが、終点(767m)は2度の寒さ。例年2~3mの雪に覆われているということですが、暖冬の影響で残雪を多少見た程度でした。ケーブルカーの途中から、琵琶湖を見ることができ、旅情を盛り上げてくれました。(右写真)ケーブルカーの終点は、まさにこんもりとした比叡山の中。



下車後、370年前に織田信長の焼き討ちにあった後に再建された国宝「根本中堂」にまず足を運びました。そこで迎えてくれた若い僧侶は、自称「サラリーマン僧侶」ならぬ「テラリーマン」と名乗って、私達を笑わせてくれました。そのテラリーマンは、ふもと坂本のお寺の住職ということでしたが、日中は、延暦寺に通い僧侶として勤めているということでした。(右下写真)



さて、延暦寺は、1,200年前に最澄によって開かれました。有名な言葉に「個々が思いやりの心をもって一隅を照らす人になる」があります。以前私が読んでいた本の中で、この言葉が気になっていたのですが、ここが発祥の地とわかり、私も再度このような気持ちを持った人間にならなくてはならないと思った次第です。この延暦寺では、その後高僧となる、法然、栄西、親鸞、道元、日蓮なども修行されたようです。

テラリーマン僧侶に根本中堂を案内していただきました。おやっと思ったのは、一般人が参拝する拝殿と本尊(薬師如来)の安置されている場合は、深さ3m幅5mほどの「奈落」でつながっているのです。このような本殿を見たのは初めてでした。一般人が参拝する場所だけ高くなっているのです。私達の目の高さに如来像を拝見することができるのです。この奈落は通気性をよくし、湿気から守るすばらしい構造になっているとのこと。ガイドブックにない、いろいろな話にテラリーマン僧侶との会話の妙がありました。

その東塔地域を後にし、山の中を登ったり下ったりすること20分で西塔地域に着きました。ここにも、釈迦如来をお祀りする立派な御堂がありました。その途中、全国のお寺から寄進された常夜灯が道の脇に立っていましたが、夜になると、ろうそくの灯りで幻想的な参道になると思われました。

酒井大阿闍梨で有名になった千日回峰は、ここ延暦寺です。この70年間で15名の僧侶が達成したそうです。この回峰は7年間にわたり、比叡山の峰々を夜から昼にかけて巡礼するというもので

す。ちなみに、さきほどのテラリーマン僧侶は100日回峰をされたようです。

今回の比叡山は、冬の参拝でしたが、山々が眠りにつく静寂の時でしたが、春は、花が咲き、野鳥の声がにぎやかに野山にこだまするそうです。夏は、美しい自然にあふれかえる時期で涼風が野山をかけめぐります。秋は、山々が紅く色づき美しい紅葉で彩られるようです。いつの季節にも、人々の祈りの場であり、心すがすがしくなる場のようなようです。

## 近江の食

滋賀県と言えば、神戸牛、松坂牛と並ぶ近江牛の産地。地元の人に聞いたところ、種牛は但馬牛でそれを県内の竜王町で飼育されたものを言うのだそうです。その絶品の味を大津市内の料亭で堪能してきました。本当に柔らかい肉で、地元の野菜と一緒にすき焼きにいただきました。近江牛というぐらいなので、県内でも近江市付近に多くの牛を食べさせてくれる処があり、大津市内では珍しいようです。

また、ふなを飯と塩でつけた鮎寿司にチャレンジしたいと思いましたが、さすがに独特な香りがあると聞いていたので遠慮しました。あとで聞いた話では、じっくりと寝かせたものは(高い値段のよう)、癖のないよい香りのようで、次回訪れた際にはいただきたいと思います。

また、有名な和菓子の店「たねや」にも足を運びました。現在では、栗饅頭といった和菓子の他に、洋菓子のバームクーヘンを製造販売している「クラブ ハリエ」もあり、こちらは三代目の作品ということです。ちなみに初代のおばあちゃんは細々と栗饅頭を作って販売していたということでした。これが、次の代で大きく成長したようで、和菓子、洋菓子とも日本屈指の有名店となりました。これも、現代に残る近江商人の力と言えるのかも知れません。また、店の名前の由来は、もともと畑に蒔く「種」の販売をしていたことから、そのまま店名になったことを地元のタクシーの運転手から聞きました。やはり地元の人と話ができるのも旅の醍醐味のひとつです。



近江牛「すき焼き」



たねや「日傘禮」店



クラブ ハリエ「日傘禮」

近江鉄道の車体「県警」の  
 広告電車。→  
 まるで、パトカーの車体色  
 そのもの。

